



研修医のいる病院に勤務する すべての医師が読むべき本

評者 國松淳和 南多摩病院 総合内科



ヒートアップ
HEATAPP!

たった5日で臨床の
“質問力”が飛躍的に向上する、
すごいレクチャー

岩田健太郎＝著

定価：本体 3,800 円＋税
A5・432 頁／金原出版／2018
[ISBN 978-4-307-10190-5]

まず、本書を読む前の評者の気持ちを吐露しよう。1 つは、私は大学教員の経験がなく学生に臨床を教えたことがないため、それを岩田先生がどのように実践されているのかわかることができるという“期待と喜び”である。他大学・他機関の講義がそのまま聴けるというのは、本当においしい。2 つ目は、評者自身が「グループ学習」が非常に苦手であり、正直に言えば“いぶかしい気持ち”である。「さあ、隣の人と考えてみましょう!」という、声高でキラキラした笑顔のリーダーの呼びかけが本当に嫌いだからだ。最後に、4 月の中頃に手にした本書、正直言うと多忙であり「(書評のためとはいえ)せっかく読むのだから、役に立つといいな」という“浅ましい気持ち”。以上、3 つの気持ちである。

そして読了後、これらの3 つの気持ちはすべて裏切られた。書評の途中で恐縮だが、こういう書籍こそ読むべきである。何の裏切りもない本や、期待どおりの本などは、読む必要がない。

まず本書は、「教員－学生」という関係性を通して、「指導医－研修医」の関係性にも通ずる重要点を提示している。冒頭「感染症内科の岩田です」と登場し、感染症の集中講義をすると宣言されている。しかし実際には、一般的な教育論、医師としての心がまえ、臨床内科学（一般内科）、勉強法、統計学、論文の読み方、プロフェッショナルリズム、アカデミズム、など多岐にわたっている。卒後の研修医、専修医、指導医にとっても、教養的に入ってくるので退屈しない。

個人的には、「時間情報は検査できない（本書 p.41）」という、さも自分が考えついたように使おうと心に決めたキラフレーズは目から鱗だった。さらに、バクタ[®] 配合錠（スルファメトキサゾール トリメトプリム）のアレルギーの機序はまだよくわかっていないとか、ratio と rate の違い、IGRA（インターフェロン- γ 遊離試験）の（素人でも）非常にわかりやすい解説、なども勉強になった。「どんな分野の本か」と得心せずに読み始めても、最後には勉強になる。すごい仕掛けである。

「岩田流」のグループ学習のもっていき方は、書籍タイトルにもなっていることもあって本書の主題の1 つだが、あえてここで触れないでおく。これこそ、著者が読者に感じとって実践してほしいと考えているはずだから。私のような、グループ学習に苦手意識（というか嫌悪感）をもつ者にも、そうした考えが浅はかで経験不足であることを序盤から突きつけられる。ファシリテーターを要しないという手法にも目から鱗だった。グループ学習に斜に構えた考えをもつ人こそ、ぜひ本書を読んでみるべきである。

読んでいる途中、飽きそう(?) になった頃合いに、なんと講義は突如英語で行われ始める! これは（実際の学生同様）、まさに文字どおり目が覚める。英語の重要性を学生に教える最良の手段だと思った。

あらゆる意味で、本書は「自分には読む必要がない」という考えを裏切ってくれる。研修医のいる病院に勤務する医師ならば、全員が読んでおいたほうが良い本であると思った。

G